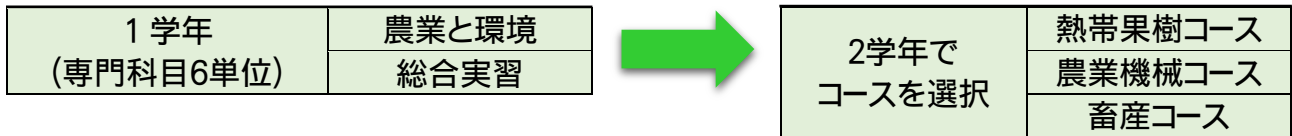


# “食”の原点を探求する! 熱帯農業科

熱帯農業科では、動物や植物など“命”あるものを教材にして飼育・栽培の授業・実習を行います。動植物を育てる、探求する、利用することを学んでいきます。

□1学年で栽培と飼育を学び、2学年からは3つのコースに分かれます。



□栽培している農作物・飼育している家畜(各コース別)

①熱帯果樹コース



マンゴー(アーウィン種)

- ・マンゴーの栽培  
品種(アーウィン) 面積(26a/ビニールハウス)  
樹木本数(100本) 収量(約1,000kg)
- ・アテモヤの栽培  
面積(2.6a/ビニールハウス) 樹木本数(18本)
- ・その他の果樹…パッションフルーツ、バナナ、レンブ、他



アテモヤの果実

②畜産コース



- ・養豚  
繁殖豚(約15頭) 子豚(約50頭) 肥育豚(約100頭)
  - ・肉牛  
繁殖雌牛(約20頭) 子牛(約7頭) 肥育牛(約15頭)
  - ・在来豚の飼育  
アゲー(15頭)…生産物(黒単色)は保存会へ他は養豚へ含む。
  - ・家禽類の飼育  
ブロイラー(200羽)
- ※家畜の飼養頭数は、出荷状況によって常に変動します。

③農業機械コース



- ・サトウキビの栽培  
栽培面積(30a)  
収量(約10t/すべて黒糖原料)
- ・黒糖製造 製造量(約320kg)
- ・その他の熱帯作物



バックホーの操縦実習



マンゴーの玉吊実習



アーク溶接実習



家畜(豚)の飼養管理実習

④1年 科目「農業と環境」・栽培分野「水稻」 ・飼育分野「家畜の飼育」



☞ 1学年の専門科目「農業と環境」では、農業生物の育成について体験的に学習します。栽培分野と畜産分野があり、寄合原農場での農業学習を幅広く学びます。

□広大な校外農場での授業・実習「寄合原農場」

熱帯農業科の農業に関する専門教科の授業・実習は、県内農業関係高校の中でも、最大規模の面積を誇る校外農場「寄合原農場」で行います。生徒は、本校に登校、朝の学習・朝のSHRを行い、その後、「学校バス」で農場へ移動します。

寄合原農場の広さは、沖縄県名護市にある「スカイドーム」の48個分もあります。

|        |                        |                              |
|--------|------------------------|------------------------------|
| 敷地・その他 | 101,922 m <sup>2</sup> | 後援会有地 190,360 m <sup>2</sup> |
| 実習地    | 88,438 m <sup>2</sup>  | ※名護市スカイドームの約48個分             |



農産加工・畜産加工施設(H26完成)



畜舎と放牧場



サトウキビの栽培

□農場生産物を活用した商品開発

①地域畜産業活性化の端緒となった北農ブランド豚「チャーger」

畜産コースでは、以前より、琉球在来豚「アger」の復元・保存と生産性の向上に関する研究に取り組んできた。その研究において、繁殖性と産肉能力の向上を目的に、アgerの雄と米国産デュロックの雌を交配、産出した品種は、北農ブランド「豚チャーger」として、2005年に商標登録を取得した。

②昔ながらの素朴な味わい「北農オリジナル黒糖」

農場で収穫したサトウキビは、農場内の施設で、圧搾・濃縮を行い、黒糖の原料として使用している。農業機械コース生産物の黒糖は、昔ながらの素朴な味わい「北農オリジナル黒糖」として、地域内外で好評を得ている。

③寄合原農場6次産業化を目指した“黄金ジャム”

平成26年度、寄合原農場に「農産加工施設」「畜産加工施設」が完成した。熱帯果樹コースでは、規格外のマンゴーやパッションフルーツを利用して、ジャムなどのオリジナル商品の研究・開発に取り組んでいる。



チャーgerの商標



マンゴー”黄金ジャム”